

臨床の第一線から離れ  
企業提携病院の職場環境の  
整備に邁進する

# 私の キャリア チェンジ

Career Change

セコム医療システム株式会社  
運営監理部担当部長

Vol. 26

金丸太一氏  
【消化器外科・57歳】

## 開業も選択肢に入れて悩んだ末 未知なる経営学に挑戦し 医師のキャリアを生かせる企業へ



Taichi Kanamaru

金丸太一氏が医師をめざしたのは中学3年のとき。父親の死を機に、「同じ疾患を持つ人を助けたい」とひたむきに医学を志す。そして1981年、神戸大学医学部を卒業後、母校の第一外科に入局。晴れて外科医となってからは、日々鍛錬に明け暮れ、神戸労災病院では12年にわたり腹腔鏡手術に情熱を注ぎつつ、若手医師の育成に尽力する。しかし、50歳をすぎたあたりから、臨床現場では将来への明確な展望を描きにくくなった。紆余曲折を経て、金丸氏はビジネスの立場から医療にかかわることを決意する。そしてセコム医療システム株式会社に入社、現在は同社の提携病院の職場環境の改善に取り組む。「多くの医療者の労働環境を整える仕事はやり甲斐があり、医療の質向上に貢献できる」と、新たな情熱を燃やしている。

文・撮影 / カレット

## BEFORE

### いろいろな意味で、臨床の 第二線からの引き際を考えた

神戸労災病院で腹腔鏡手術に腕を振るっていた金丸氏が、転職を考え始めたのは50歳をすぎたころ。「先が見えたと言うのでしょうか」と当時を振り返る。

「病院トップには大学を退官された先生が就任するのが慣例でしたので、このままでいいのか」。将来に対する疑問が生じ、開業を含めた転職を模索する日々が過ぎました。

そのころ大野病院事件が起こる。勤務医を取り巻く環境の変化も、転職を考える要因となった。

「社会の医師への目が必要以上に厳しくなり、「立ち去り型サポーター」ユ」という言葉がメディアで頻繁に使われ始め、私自身もそれに近い状態に陥りかけたときもありました」

そうした一方で、自分の指導した若手の成長ぶりに目を見張る機会も増えてきた。

「いろいろな意味で、臨床の第一線からの引き際を考えるようになりまし。大学の恩師から「公的病院にいるうちは、若手の教育と研究・論文執筆は（医師としての）使命だ」と教わりました。これを忠実に守って

きた私ですが、ふと、考えるところがあった。50代を迎えた医師、特に外科医は誰もが一度はそうした心境に達するのではないのでしょうか」

### 開業は時期尚早と判断し 民間病院に入職する

開業を視野に入れた転職を思い始めた矢先、かつての恩師から「神戸市内の民間病院で腹腔鏡手術を立ち上げてほしい」との依頼が舞い込む。開業するか、気持ちも新たに臨床の一線に立ちつづけるか。金丸氏は親しい開業医に相談を持ちかけた。

「彼からは『開業は絶対によめろ』と即座に釘を刺されました。『さまざまな選択肢が用意されている中、それでも開業する気概があるなら反対しないが、迷っている状況で開業しても決して良いこととはない』と言われたのです」

友人の言葉に納得した金丸氏は、誘いを受けた神戸市内の民間病院に入職。短期間で腹腔鏡手術件数を飛躍的に伸ばすなど実績を残す。しかし、踏んばってはみたものの、やはり、いつまでも臨床の一線にいられるものではない。新しい職場環境では、なおさらだった。悟った金丸氏は、あらためて次の道を探し始める。

### MBA取得を自らに課し 企業への入社を決意する

そんな折、東京都内の医療施設への入職を促す人物が現れた。現セコム医療システム取締役の牧卓氏だ。「私が神戸の民間病院に勤務する以前、彼は同院で事務長をしていた経緯があり、そのつながりから私のことを知ったのかもしれない」と、牧氏の誘いは同社の提携病院への

入職であったが、新しい勤務先に溶け込む難しさを経験していた金丸氏は、申し出を辞退する。すると、今度は「それならセコム医療システムで、医療マネジメントの仕事をしてみたいか」、まったく想定外の話が持ち出されたのだ。

臨床現場の外科一筋できた金丸氏にとって、経営は未知の世界だった。が、それだけに魅力的でもあったという。そして医療に特化したMBAである「MHA」を取ろうと決意する。「自分にはできない」と決めつけず、知らないなら一から学ばないと前向きな考えにいたったのです。ちょうど兵庫県立大学大学院経営研究科にMHAを学べるコースがあり、同大学への入学が叶ったらご連絡します、と牧氏に伝えました」

早速、願書を提出、面接に赴いた金丸氏は仰天する。なんと、面接官のほとんどがお付き合ひのある先輩だったのだ。

「先輩方もずいぶん驚かれて、開口一番「何をしに来たのか」と言われました（笑）」

諸先輩に事情を話し「MHAを学びたい」と伝えると「希有な人材のチャレンジだ」と全員一致でコース受講が決定。週一度の講座に通いながら、セコム医療システムでの勤務がいよいよスタートした。

## 55歳で退職を決め

## MBA取得をめざし、企業人として

## 医療へかかわる道へ。